

# 板橋区コミュニティ・スクールに係る アンケート調査《学校回答用》 まとめ

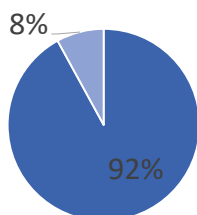
令和7年度

1

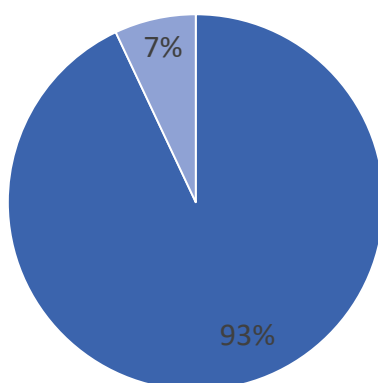
1

## Q1 会議の開催数（年5回）は適当だと思いますか。

令和6年度



令和7年度



■ 適当 ■ 適当でない

会議の開催数が適当だと回答した学校は約93%であった。

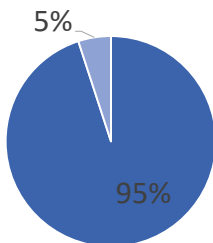
適当でないとする回答の中には、6回以上開催する必要があるとの意見もみられた。

2

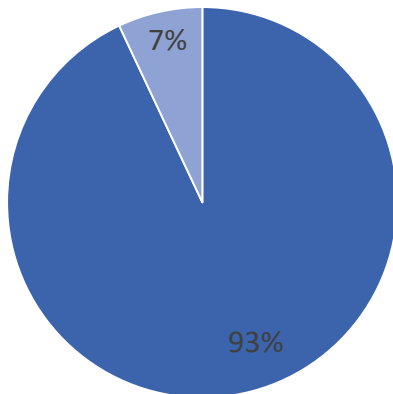
2

## Q2 委員の人数（地域委員10人以内）は適当だと思いますか。

令和6年度



令和7年度



■ 適当 ■ 適当でない

委員の人数は適当であると回答した学校は約93%であった。

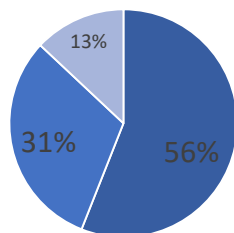
適当でないとする回答の中には、学校の実情によって委員数を変えても良いのではないかという意見もあった。

3

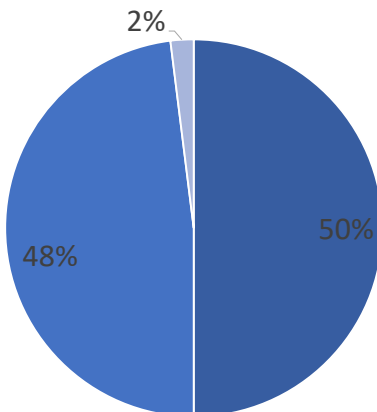
3

## Q3 熟議のテーマ設定に委員長又は委員の意見を反映させていますか。

令和6年度



令和7年度



■ 毎回している ■ 1回はしている ■ していない

約98%の学校が、1回以上は熟議のテーマ設定に委員長又は委員の意見を反映させていると回答した。

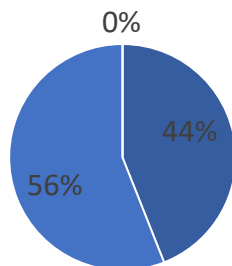
委員会開始前にCS委員長と打合せを行い、熟議のテーマを決めている学校もある。

4

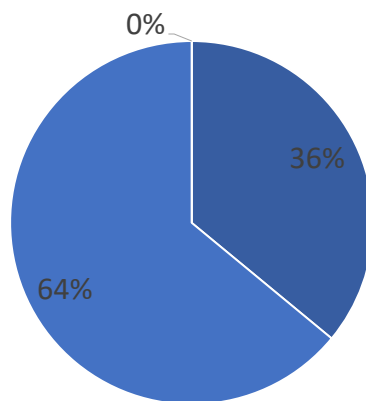
4

## Q4 学校の課題や悩みについて、委員と共有できていると思いますか。

令和6年度



令和7年度



■すべて共有できている ■一部共有できている ■共有できていない

昨年度と同じく、全ての学校において、委員と課題や悩みを共有できていると回答した。

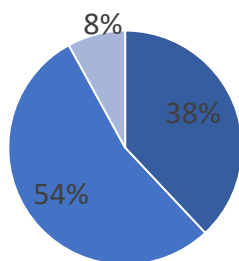
年5回のCS委員会では、タイムリーに課題や状況を共有することができないという意見もある。

5

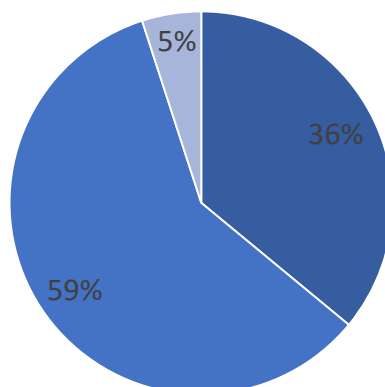
5

## Q4-2 (すべて共有できている・一部共有できていると回答した学校) 学校の課題や悩みに対して、委員から解決策等が出てきますか。

令和6年度



令和7年度



■具体的解決策まで出る ■意見は出るが解決までには至らない ■あまり意見は出てこない

問4で課題や悩みを共有できていると答えた学校のうち、具体的解決策まで出る学校は約36%であった。

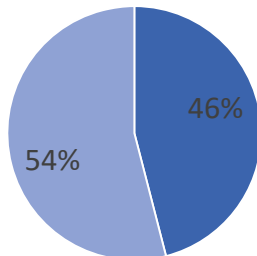
昨年度と比較し、委員から意見が出る学校の割合は約3%増加した。

6

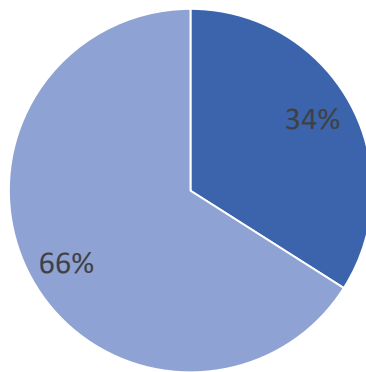
6

## Q5 学校経営方針や基本的な方針について、委員から意見はありましたか。

令和6年度



令和7年度



■ある ■ない

CS委員会の重要な機能の1つである基本的な方針の承認について、委員から意見があったとする学校は約34%であった。

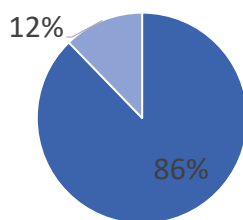
CS委員会で年間を通して学校経営方針について熟議、説明をしている学校もある。

7

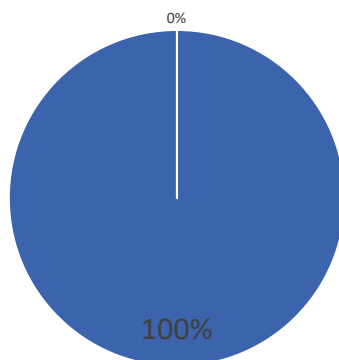
7

## Q5-2 学校経営方針や基本的な方針について、委員から意見はありましたか。 (あると回答した学校) 出された意見を当該方針に反映させましたか。

令和6年度



令和7年度



■反映させた ■反映させることはできなかった

意見を反映させた学校は、100%であった。

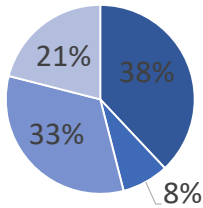
学校経営方針の説明の際には、委員が理解しやすく、意見が出しやすい環境が求められる。

8

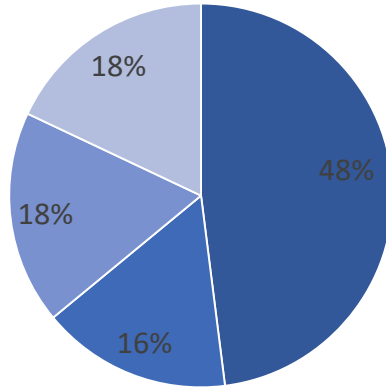
8

**Q6 熟議を実施する際、積極的な発言や意見をまとめるなど、実質的に熟議の進行を担っている方を選択してください。**

令和6年度



令和7年度



■委員長 ■校長 ■副校長 ■その他

昨年度と比較し、熟議の進行を委員長が担う学校の割合が約10%増加した。その他の意見の中には、副委員長やCS委員が務めているという意見が多かった。

9

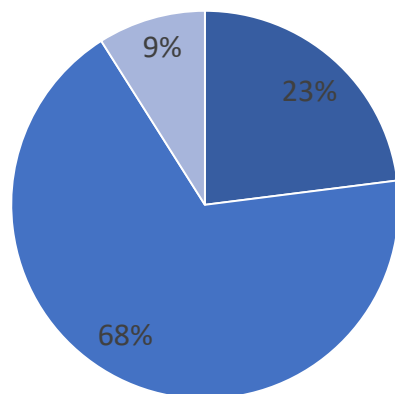
9

**Q7 熟議を実施する際に、教職員は参加しましたか。**

令和6年度

設問なし

令和7年度



■毎回している ■1回はしている ■していない

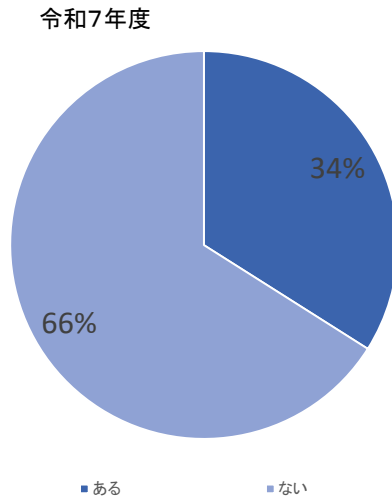
約91%の学校が、1回以上熟議に教職員が参加していると回答した。主幹教諭など、地域との連携を担当する教職員が毎回参加している学校もある。

10

10

Q8 熟議を実施する際に、児童・生徒が参加したことはありましたか。

令和6年度  
設問なし



約34%の学校が、熟議を実施する際に、児童・生徒が参加したことがあると回答した。

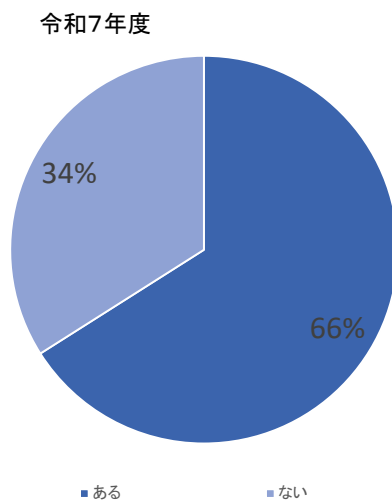
生徒会の生徒や6年生児童が熟議に参加する例がみられる。

11

11

Q9 学びのエリアにおけるめざす子ども像と基本方針を、CS委員会で話題として取り上げたことはありましたか。

令和6年度  
設問なし



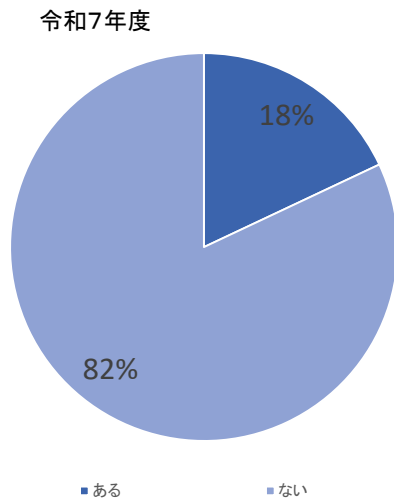
約66%の学校が、学びのエリアにおけるめざす子ども像と基本方針を、CS委員会で話題として取り上げたことがあると回答した。

12

12

Q10 [小学校]学びのエリアの中学校と合同でCS委員会を開催した回がありましたか。  
[中学校]学びのエリアの小学校と合同でCS委員会を開催した回がありましたか。

令和6年度  
設問なし



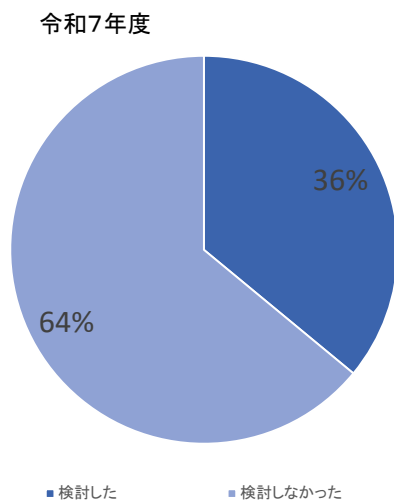
約18%の学校が、学びのエリアの学校と合同でCS委員会を開催している。  
小中合同のCS委員会は熟議というより意見交換のようなものに留まってしまいうことが多いという声もある。

13

13

Q10-2 (あると回答した学校)  
小・中合同で実施できる地域連携事業等を検討しましたか。

令和6年度  
設問なし

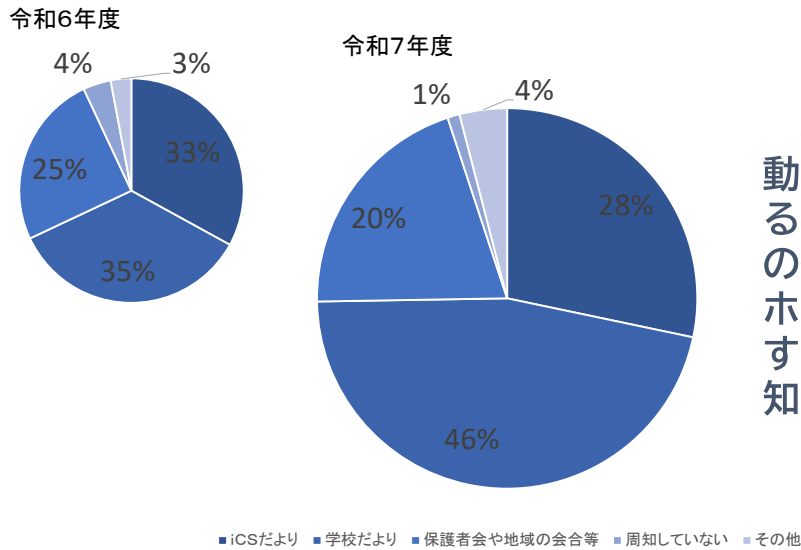


約36%の学校が、学びのエリアの学校と合同でCS委員会を開催する際に、小・中合同で実施できる地域連携事業等を検討したと回答している。

14

14

Q11 CS委員や地域コーディネーター、iCS活動についての紹介や周知方法に関して、当てはまる項目を全て選択してください。

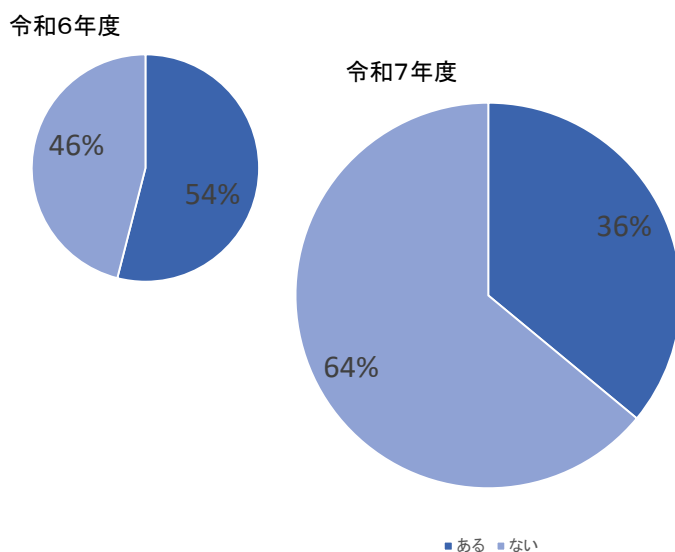


学校だよりでiCSの活動の紹介や周知を行っている学校が最も多かった。その他の回答として学校のホームページへの掲載や、すぐーるの活用によって周知をしている学校があった。

15

15

Q12 委員の人選について、課題と感じていることはありますか。



委員の人選に課題を感じている学校は約36%と約18%減少した。

【主な意見】

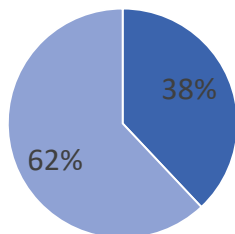
- 委員の高齢化
  - 定期的に入替えは重要と感じているが、後継者探しが難しい。
  - 仕事をしている委員の出席率が低くなってしまった。
  - 任期が無いと委員の交代が難しい。
- など

16

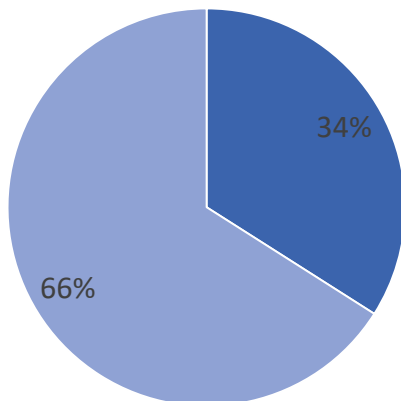
16

### Q 1 3 委員の任期に更新限度を設定した方がいいと思いますか。

令和6年度



令和7年度



■ 思う ■ 思わない

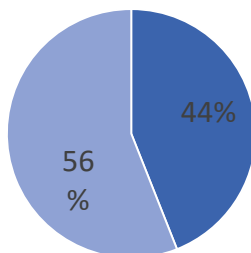
約34%の学校が、委員の任期に更新限度を設定した方がいいと回答した。  
3年～5年程度の回答が多く寄せられた。

17

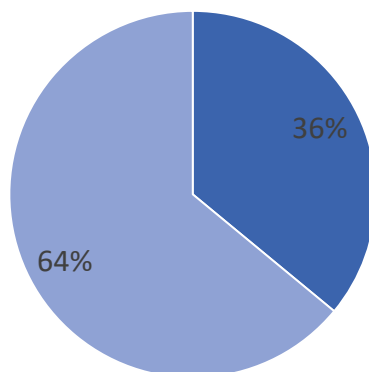
17

### Q 1 4 委員長任期についても定めた方がいいと思いますか。

令和6年度



令和7年度



■ 思う ■ 思わない

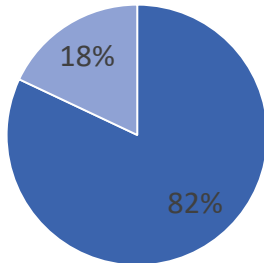
約36%の学校が、委員長の任期についても定めた方がいいと回答した。  
2、3年程度との回答が最も多く寄せられた。

18

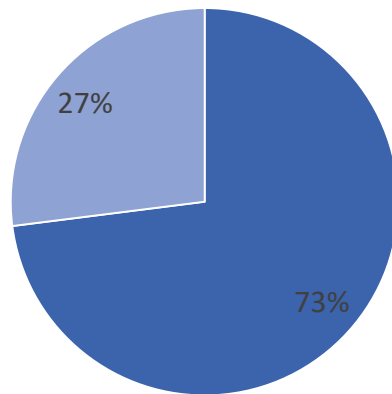
18

### Q15 現在委嘱されている地域コーディネーターの人数は足りていると思いますか。

令和6年度



令和7年度



地域コーディネーターの人数が足りているとする学校は約73%であった。後継者不足等の課題を抱えている学校や、コーディネーターによって仕事量の差があるとする学校も多い。

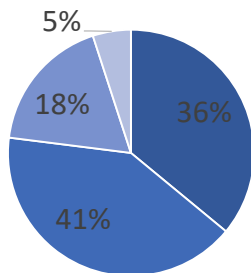
■ 思う ■ 思わない

19

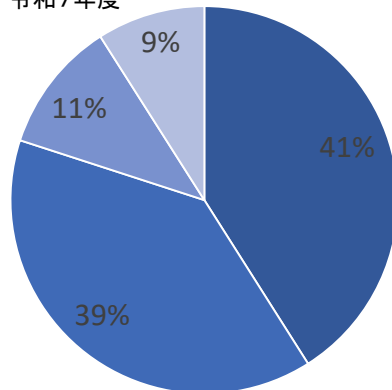
19

### Q16 貴校の学校支援地域本部の活動は活発だと思いますか。

令和6年度



令和7年度



「とても活発」、「どちらかといえば活発」と回答した学校は、約80%であり、昨年度よりも約3%増加した。

地域コーディネーターの活動時間も年々増加傾向にある。

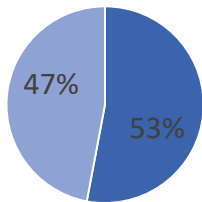
■ とても活発 ■ どちらかといえば活発  
■ どちらかといえば活発ではない ■ 活発ではない

20

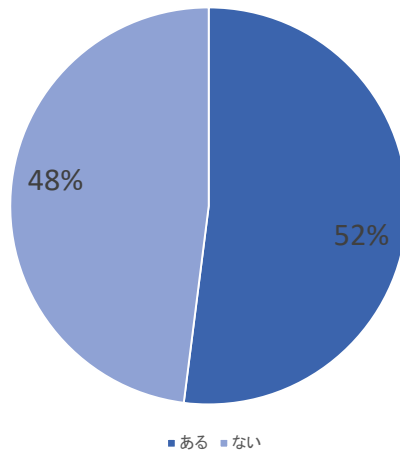
20

Q17 学校支援地域本部事業について、課題と感じていることはありますか。

令和6年度



令和7年度



学校支援地域本部事業について、課題があるとする学校は約52%であった。

【主な意見】

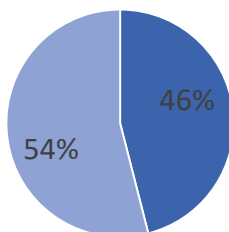
- 受け身であり、主体的ではない印象を受ける
  - コーディネーターの後継者問題
  - 引率ボランティアに交通費を支給してほしい
  - 活動のための予算が少ない
- など

21

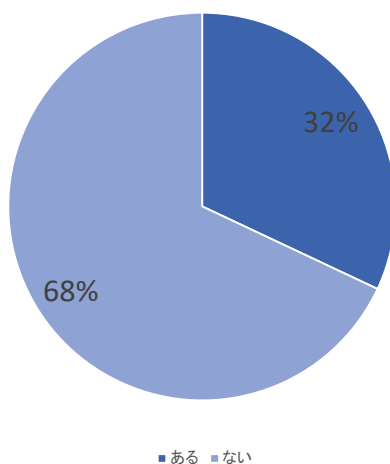
21

Q18 学校支援地域本部を通さず、直接ボランティアとつながって支援活動を行っている例はありますか。

令和6年度



令和7年度



直接ボランティアとつながっている学校は、約32%であった。昨年度から約14%減少した。地域コーディネーターの調整により活動を行う学校が増えたと推測される。

【主な取組】

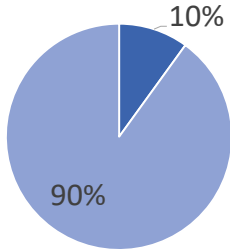
- 学習支援ボランティア
  - 放課後学習教室ボランティア
  - 校外学習引率ボランティア
  - 別室見守りボランティア
- など

22

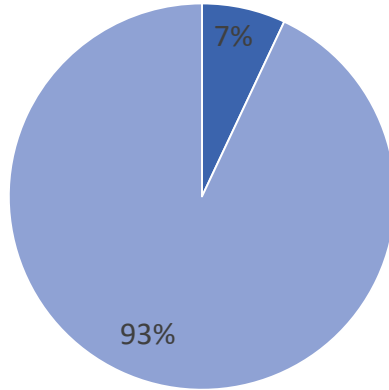
22

### Q19 統括コーディネーターに相談したいことはありますか。

令和6年度



令和7年度



■ある ■ない

統括コーディネーターに相談したいとする学校は約7%であった。

【主な相談内容】  
 ■ i C Sの在り方について  
 ■ 地域人材の発掘について  
 ■ C S委員会の効果的な運営方法について  
 など

23

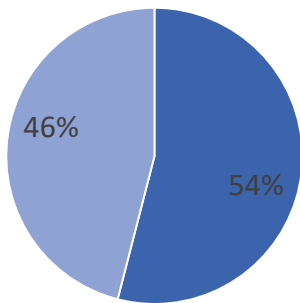
23

### Q20 地域の力を活用することで、校長・副校長の業務量・負担は減ったと感じていますか。

令和6年度 設問なし

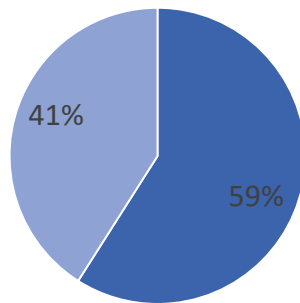
令和7年度

【校長】



■減ったと感じている ■減ったと感じていない

【副校長】



■減ったと感じている ■減ったと感じていない

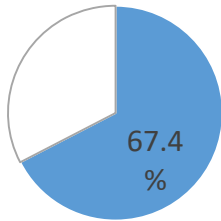
地域の力を活用することで、業務量・負担が減ったと感じている校長は約54%、副校長は約59%であった。

24

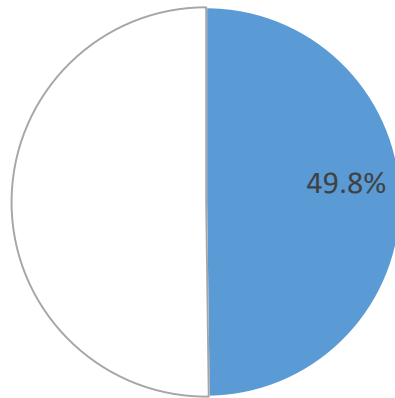
24

### Q20-2 地域の力を活用することで、自身の業務量・負担が減ったと感じている教員（校長・副校長を除く）はどのくらいいますか。

令和6年度



令和7年度



地域の力を活用することで業務量等が減ったと感じている教員は約49.8%であった。昨年度から、約17.6%ほど減少した。

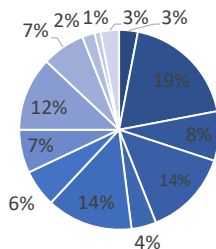
授業支援や総合的な学習の時間で負担が減ったと回答した学校が多かった一方、地域との調整に時間がかかるため、業務量・負担が減ったと感じないという意見もあった。

25

25

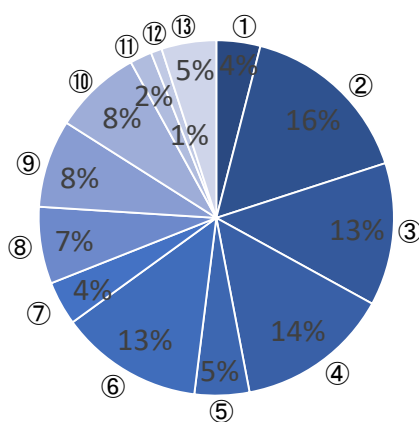
### Q20-3 地域の力を活用することで、具体的にどのような点で負担が減ったと感じますか。

令和6年度



- ① 授業準備
- ② 授業支援
- ③ キャリア教育
- ④ 総合的な学習の時間
- ⑤ 特別活動
- ⑥ 児童・生徒の見守り
- ⑦ 不登校支援
- ⑧ 居場所づくり
- ⑨ 学校行事(周年行事)
- ⑩ 校内整備(美化・清掃)
- ⑪ 部活動補助
- ⑫ 保護者対応
- ⑬ その他

令和7年度



地域の力を活用することで負担が減ったと感じている具体的な業務について、②「授業支援」④「総合的な学習の時間」を挙げる学校が多くみられ、教員が質の高い授業づくりを考える時間の確保に貢献している。また昨年度と比較し、③キャリア教育を挙げる学校の割合が約5%増加した。

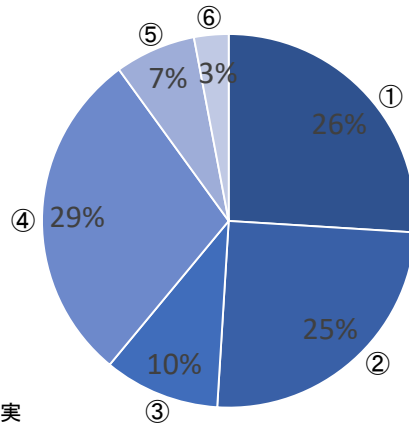
26

26

## Q20-4 業務量や負担感が減ったことにより、どのような効果がありましたか。

令和6年度  
設問なし

令和7年度



- ① 授業準備・研究の時間増
- ② 勤務時間の短縮
- ③ 教員自身の生活の充実
- ④ 児童・生徒への対応の充実
- ⑤ 保護者への対応の充実
- ⑥ その他

業務量や負担感が減ったことにより生じた効果について、①「授業準備・研究の時間増」④「児童・生徒への対応の充実」を挙げる学校が多くみられた。その他の意見としては、「教員が対応できない時間における児童・生徒の見守りが可能となった」という意見などがあつた。

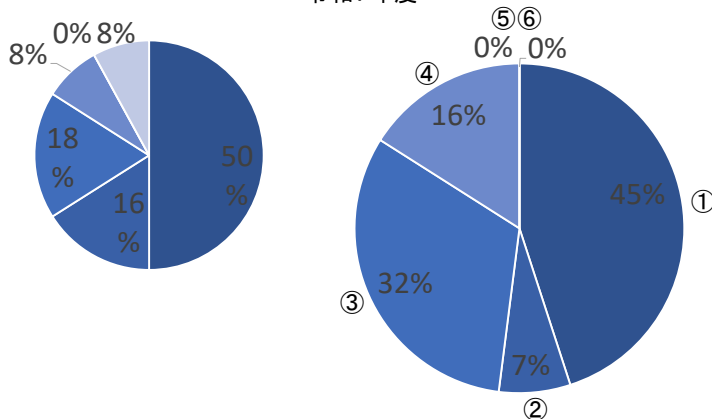
27

27

## Q21 「地域とともにある学校」を実現するにあたり、最も必要だと思う要素を1つ選択してください。

令和6年度

令和7年度



- ① 地域との連携・協働が不可欠だとする学校・教職員の意識
- ② 学校と地域が目標・ビジョンを共有するための熟議の実施
- ③ 地域の特色を生かした教育活動の展開

- ④ 地域人材の学校経営への参画
- ⑤ 地域への学校施設の開放
- ⑥ その他

①を必要とする学校が約45%、③を必要とする学校が約32%であった。地域の特色を生かした教育活動の展開について重視する学校の割合が増えた。

28

28

## Q22 iCSに関して、教育委員会に対する要望、又は悩みや課題等がある場合はご記入ください。

### 主な意見の内容とそれに対する回答

意見	回答
司会・議事録の作成などを委員が行うように働きかけてほしい。	年度初めに開催予定のCS委員初任者向け研修及びCS委員研修をとおして、CS委員の役割について広く周知していく。
教育委員会に各学校のCS委員会へ参加をしてもらい、他校の取組やiCSの在り方について情報共有してもらいたい。	CS委員会の視察を行い、熟議の方法や委員会の運営について好事例の収集、発信をしている。事務局だけでなく、統括コーディネーターも視察を行うことで、各校の悩みや事例の発信について柔軟に対応できるように努める。
iCSの理念の伝わり方が学校や人によって温度差がある。	教職員や保護者等地域に対するiCSの理念周知は課題の一つである。iCSレターや研修等により、iCSの理念を分かりやすく伝えるよう努める。

29